

舞鶴市議会議長
桐野正明 殿

作成日 平成28年 8月22日
鶴翔会議員団
幹事長 亀井敏郎

行政視察報告書

以下のとおり行政視察の報告をいたします。

1. 所属会派：鶴翔会議員団
議員名：亀井敏郎 松岡茂長 田村優樹
2. 日程：平成28年7月25日（月）～平成28年7月27日（水）
3. 行政視察先1 北海道恵庭市
行政視察先2 北海道札幌市
行政視察先3 岩手県盛岡市

行政視察先 1

北海道 恵庭市（恵庭市役所）

視察日時：平成28年7月25日（月）14：00～15：30

視察項目：「恵庭子ども塾・子どもの「やる気」をのばす体験活動」について

- ① 恵庭市の教育環境について
- ② 通学合宿への取組と効果について
- ③ 目指す「地域の教育力向上」について
- ④ 近年取り組まれている主な事業について
- ⑤ 事業の成果と課題について

対応者：恵庭市教育委員会 教育部 社会教育課長 中陳法仁 様
恵庭市教育委員会 教育部次長 内藤和代 様
恵庭市教育委員会 教育部 社会教育課主事 中村和暉 様
恵庭市教育委員会 教育部 社会教育課主査 吉野裕太 様

視察の内容

恵庭市教育委員会では、「様々な体験活動を通して豊かな人間性を育む」ことを目的に『恵庭子ども塾』という個性豊かな事業を展開していることから、この事業の成果と課題を調査研究する。

取り組み方

市内の子どもたちやその保護者を対象として、自然体験や生活体験、スポーツ、文化活動、ものづくり、実験など様々な体験活動を提供している。

『恵庭子ども塾』は日帰り型の事業と宿泊型の事業があり、青少年研修センターを会場とした宿泊型の事業は、「集団宿泊生活を通して異年齢交流を深め、協調性や思いやりの心を育む」、「公共施設におけるマナーを身につける」などを目的に、行政と地域が一体となった取り組みがなされている。

視察の成果

恵庭市では、市民が積極的に花の勉強やオープンガーデン作りに取り組み、環境美化に対する意識の高さが伺える。

また、小さな子どもたちには行政から絵本のプレゼント、ブックスタートというサービスが施され、お母さんからの読み聞かせに始まり、小学校では朝の読書時間で気持ちを集中させることや、高齢者に対しての読み聞かせなど、生まれてから高校生に至るまで読書と深い関わりを持つ教育環境が特徴的で参考になった。

通学合宿では、小学校の8校区中6校区で実施され、広くは7泊以上が効果的といわれる中で、5泊6日の合宿時には市長自ら視察に訪れるなど熱心さも感じました。

さらには、地域一体型の取組に重点が置かれ、子どもの社会教育は成人教育であるという認識の下で、「目指す地域力の向上」については、行政主導の事業から地域主導型の事業が推進され、補助金等を一切受けることなく発展的に継続されて行く背景には、地域の多大なる支えや支援があることを理解すると共に、本市の「子育て支援のあり方」についても再確認する必要性を感じた次第です。

視 察 先



行政視察先 2

北海道 札幌市（北海道さっぽろ「食と観光」情報館）

視察日時：平成28年7月26日（火）10：00～11：30

視察項目：北海道「食と観光」の情報提供について

- ① 事業の概要（施設整備に至った経緯、開業までの経過）について
- ② 運営主体の組織（行政の関わり方、道・JRとの関係・連携等）について
- ③ 館内視察

対応者：北海道さっぽろ食と観光情報館 館長 竹花亜佐 様

視察の内容

「北海道さっぽろ『食と観光』情報館」は、北海道と札幌市との連携により、JR札幌駅構内に整備された北海道の「食」と「観光」の魅力を発信する情報拠点であり、この情報館には道内各地の観光パンフレットを取り揃える等、外国語対応可能な観光案内スタッフが常駐している。また、道内各地の特産品を展示、販売するコーナーや道産食材を使用した軽飲食を提供するコーナーなども備え、北海道観光の様々な情報を入手するといったことへの取り組み方を調査研究する。

取り組み方

1. 道内全域の観光情報や札幌市内のイベント情報をワンストップで入手できる日本最大級の観光案内所として機能させている。
2. 案内スタッフは英語対応を基本に、中国語、韓国語対応も可能なスタッフを配置している。
3. JR北海道との連携により「JR総合案内所」を併設し、観光案内とともに宿泊予約や切符の発行なども対応している。
4. 外国人用のATMが設置されている。
5. 外国人観光客向けに、施設内で使える無料WiFiカードを提供している。
6. 高齢者や障害者、子供連れの旅行者向けに、車いす・ベビーカーの貸出や、ユニバーサル観光情報を提供している。
7. 北海道「食のサポーター」お薦めの道産食品など、北海道らしさにこだわった約2,000種類の商品を販売している。
8. 道産食品を使用した軽飲食を提供するコーナーでは、札幌に居ながらにして、道内各地の旬の味覚が味わえる。
9. 障がいのある方が作成した作品の紹介・販売を行うふれあいの場、福祉ショップがある。

視察の成果

札幌市の観光案内は昭和40年頃から始められてきた経緯がある。当時は道と市が発信する情報はバラバラであり統一性がなかったとお聞きした。

その経緯から、平成19年2月に今の情報館が設立され、北海道の旬な情報がリアルタイムで発信できるようになり、外国人の受け入れ態勢などを強化した結果、情報館の利用者数は、日本人、外国人共に急増、増加傾向にあることが明確で、高まるニーズをしっかりと捉えることの重要性を認識した。

また、来館者の人数、地区、国別、時間帯、問い合わせ内容など、詳細なチェックシートを活用で、おもてなしやサービスの向上に取り組み、独自の手法が活かされている点も評価できた。

さらに、職員の体制については、外国語を得意とする契約社員、派遣社員を採用し、業務の円滑化、効率性が図られていることなど、本市においても取り入れるべき施策が要所に感じられました。

視 察 先



行政視察先 3

岩手県 盛岡市（盛岡市役所）

視察日時：平成28年7月27日（水）9：30～11：30

視察項目：「盛岡市観光推進計画」について

- ① 計画の概要について
- ② 関係団体・業者・市民との関係・連携について
- ③ （想定される）事業効果と今後の課題について
- ④ 現地視察

対 応 者：盛岡市議会議員 産業環境常任委員会 委員長 細川光正 様

盛岡市議会事務局 主任 早野俊一郎 様

盛岡市商工観光部 観光交流課 課長 小笠原千春 様

盛岡市商工観光部 観光交流課 課長補佐 佐々木伸司 様

視察の内容

盛岡市は、交流人口の増加と観光産業の振興を通じて、雇用の創出と地域経済の活性化、多様な文化交流の実現を図るため、平成27年度から31年度までの5年間で計画期間とする新しい観光推進計画を策定されており調査研究する。

取り組み方

基本方針では、良好な自然環境と先人から受け継いだ伝統の暮らし・文化に根ざした盛岡の魅力を、市民はもとより多くの人を知り、体感し、情報発信を通じて、盛岡ファンが世界に広がり、活発な交流が行われる観光交流都市を目指し、「観光地域づくり」、「盛岡観光のブランディング」、「情報発信と観光客誘致」、「観光産業の競争力強化」、「国際観光の推進」に取り組まれている。

視察の成果

盛岡市の観光の現状と課題をよく分析されている印象を受けた。観光客入込数も増加傾向にあり、平成27年度では前年度を11万8千人も上回る50万8千8百人にのぼり、観光統計を開始して以降、最多を記録している。特に日帰り客の増加が顕著で、412万7千人を記録した要因には、東北新幹線・秋田新幹線の分岐点であることや、北海道新幹線の開業などが大きいと認識しました。また、外国人観光客も増加しており、前年度に比べ4割増加で、国、地域別の内訳では、台湾、中国、米国、タイ、旧ソ連、香港、韓国、カナダ、オーストラリア等が多いことから、観光案内板などの多言語表示やWi-Fiスポットの整備促進など受け入れ環境の整備を図るとともに、関係機関や関係団

体などと連携し、積極的な海外プロモーションや宣伝活動を行うなど重点化施策として取り組まれているところは、本市にとっても効果的で有効な施策であると認識しました。

今後においては、東北地方全体での観光圏といったプラン、取り組みが計画され、国内外の旅行者やコンベンションの誘致を推進するため、積極的な情報発信、祭り・イベントの充実や特産品など物産の振興、おもてなしの心の醸成や受け入れ態勢の整備など、観光振興をさらに図ることが課題であるとお聞きし、時代に即した観光ビジョンとはどのようなものかを、再認識する機会となりました。

視 察 先

